

平成27年度 自己点検・評価書

平成28年3月

佐賀大学
保健管理センター

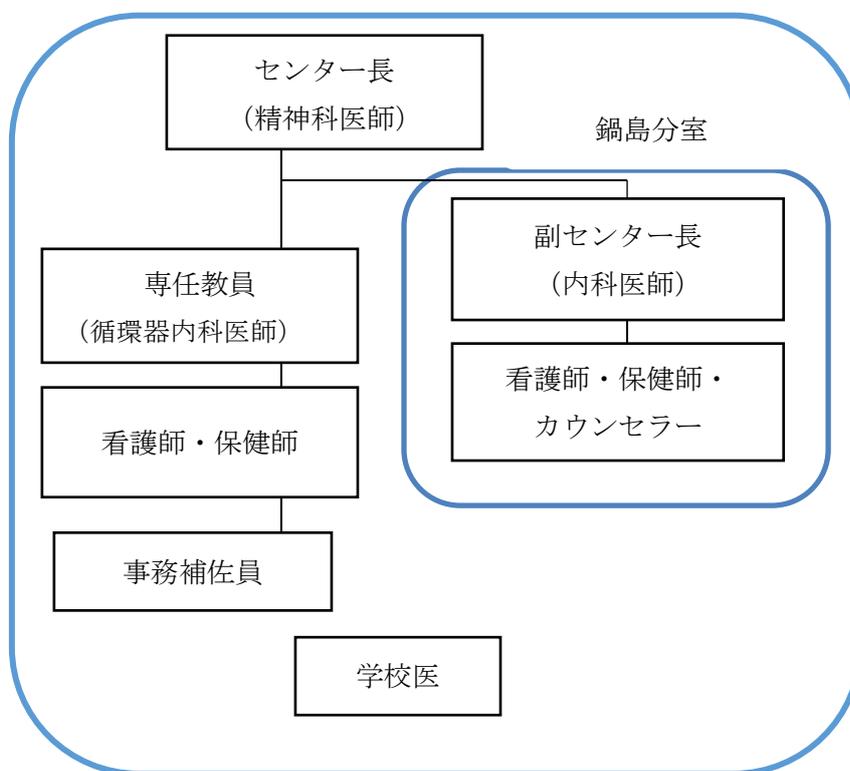
I 日常業務である保健管理センター活動について

平成 27 年度における保健管理センターの日常業務に関して、その活動報告および自己評価を行う。

【設置の趣旨】

保健管理センターは、大学の保健管理に関する専門的業務を一体的に行う厚生補導のために設置され、学生及び教職員の心身の健康の保持増進を図ることを目的として活動している。

保健管理センター組織図



※センター専任教員
3名は産業医を兼務

I. 平成 27 年度学生の健康管理実施状況

○ 学生健康診断他活動状況

本庄地区では、健康診断として、新入生健康診断、在学生健康診断、留学生健康診断、スポーツ健康診断、R I 健康診断、感染対策として、小児感染症抗体検査、メンタルヘルスと

して、通常カウンセリングおよびスクリーニング、その他として、禁煙サポート、肥満学生支援、ブルガタ精査、健康診断証明書発行などの業務があります。

鍋島地区では、健康診断として、在學生健康診断、大学院生健康診断、R I 健康診断、感染対策として、小児感染症対策（新入生）、B型肝炎ワクチン接種、ツベルクリン反抗検査、インフルエンザワクチン接種、メンタルサポートとして、カウンセラー面談、その他として健康診断証明書発行などの業務があります。

<本庄キャンパス>

1. 定期健康診断

新入生 1,188 名中 1,180 名（99.3%）が定期健康診断を受けた。在學生の2年生は 1,206 名中 867 名（71.9%）、3年生は 1,249 名中 1,071 名（85.7%）、4年生は 1,558 名中 1,252 名（80.4%）、大学院生は 709 名中 573 名（80.8%、研究生などは 129 名中 92 名（71.3%）であり、総計 6,039 名中 5,035 名（83.4%）であった。

平成 26 年度は 84.5%、本年度は 83.4%であり、受診率は維持している。

2-1, 2-2, 2-3 健康診断結果（各検査所見）

現症または所見のある者の中で、頻度の高い疾患および状態像は、やせ（BMI 18 未満）が 466 名、肥満（BMI 30 以上）が 114 名、気管支喘息が 244 名、アトピー性皮膚炎が 66 名、アレルギー鼻炎 36 名、心疾患・心雑音・不整脈が 94 名、不眠が 31 名、胸部 X 線異常が 34 名（2 名の気胸）、などであった。心電図検査は、新入生は全員に行っている。大学院生・編入生・留学生を合わせて、1,339 名に行った。その結果では、ST-T 異常が 35 名、R 波増高不良が 11 名、心室性期外収縮が 5 名、などがみられた。心電図異常所見者は、継続的に経過観察しており、平成 27 年度は、224 名を検査した。必要な学生には心エコー検査を行い、適宜、医療機関に紹介した。

2-4 留学生特別健康診断

留学生健診は、春と秋（秋入学者対象）に実施している。血液検査では、高脂血症の学生が多く、前年比 15 名増であった。血液検査結果は、個別指導を行い、春健診で異常がみられた学生は、秋にもフォローアップしている。

前期及び後期で血液検査に認められる異常所見は、高脂血症、B 型肝炎ウイルス陽性、肝機能障害、高尿酸血症、貧血などであった。

3. メンタルヘルス対策

3-1 健康相談調査（メンタルスクリーニング）

心理面のスクリーニングを行うために、本年度は新入生、卒業予定学生（学部学生）および大学院生へ「一般健康調査票（CMHQ）」「College Mental Health Questionnaire」を配

布した。それぞれの結果のまとめを以下に提示する。

心理面のスクリーニングを行うために、本年度は新入生、卒業予定学生（学部学生）および大学院生へ「国立大学法人保健管理施設協議会作成の質問票」を配布した。それぞれの結果のまとめを以下に提示する。

新入生：回収率は、1,181名中1,173名（99.3%）であり、昨年同様に高かった。質問票のスコアが90点以上（ストレス過剰の可能性）の学生は91名（7.8%）であった。それらの学生の中で、87名（95.6%）に面接を施行した。頻度の高い診断としては、神経症5名、気分障害4名、発達障害圏内の可能性3名、などが認められた。

卒業予定学生（学部学生）：回収率は、1,534名中1,234名（80.4%）であった。質問票のスコアが90点以上（ストレス過剰の可能性）の学生は86名（7.0%）であった。それらの学生の中で、80名（93.0%）に面接を施行した。頻度の高い診断としては、神経症17名、気分障害6名、発達障害圏内の可能性7名、睡眠障害1名、などが認められた。

大学院生：回収率は、608名中490名（80.6%）であった。質問票のスコアが90点以上（ストレス過剰の可能性）の学生は490名中29名（5.9%）であった。それらの学生の中で、23名（79.3%）に面接を施行した。頻度の高い診断としては、神経症4名、気分障害3名、発達障害圏内の可能性2名、などが認められた。

全般的にみると、ストレスの度合は、新入生7.8%＞卒業予定者（学部学生）7.0%＞大学院生5.9%順に高かった。

発達障害圏内の可能性の学生について：男女ともに、増加傾向にあるが、平成26年10月より学生支援室集中支援部門の専門教員と連携し、サポートを行っている。

3-2 カウンセリング状況

本庄地区では、非常勤の学生カウンセラー2名が配置されている。

カウンセリングを受けた学生数は246名、延べ面談数は931回であった。

カウンセリングの相談内容は、精神衛生113名、学生生活52名、対人関係23名の順であった。

3-3 集中支援部門との連携

平成26年10月より、専任教員が配置。キャンパス・ソーシャルワーカーとの連携強化。

キャンパス・ソーシャルワーカーが対応した相談実数は、52名（内、アウトリーチは8名）である。

延べ電話回数 961 回、延べメール送信数 862 通、延べ面談数 512 回であった。1 月末時点で継続して支援を要する学生は、89 名（内、保健管理センターとの連携は 17 名）

3-4 休・退学調査・障害学生（留学生を除く）

平成 27 年度の全学生をあわせると、休学者が 218 名、退学者が 140 名であり、総計 358 名となる。平成 26 年度より 17 名減少している。休学者の理由は自分以外の要因のカテゴリー（経済的理由・家庭の都合・就労先の仕事の都合）が最も多く 84 名、大学教育路線にある理由のカテゴリー（留学・他大学受験・資格取得準備等）40 名、不明・不詳のカテゴリー（一身上の都合など）34 名の順となる。一方、退学者の理由として、大学教育路線から離れる理由のカテゴリー（学業意欲減退・単位不足・就職等）58 名、不明・不詳のカテゴリー（授業料未納・一身上の都合）41 名、自分以外の要因のカテゴリー（経済的理由・家庭の都合・就労先の仕事の都合）22 名の順となる。

自主退学の年次推移では、平成 26 年度の 122 名とあまり変わらず平成 27 年度は 119 名である。また、平成 27 年度は 2 名の死亡報告があり、その背景には自殺の可能性が考えられる。さらなるメンタルサポートの重要性が必要であると考えられる。

障害学生調査では、平成 27 年度は、37 名にみられ、前年と比較すると、8 名の増加である。難病の学生 8 名の増加、発達障害の学生 1 名、肢体不自由の学生 1 名の増加がその理由である。

4-1 感染症対策

本庄地区では、「麻疹の流行に伴う大学等の教育実習生に対する指導」に基づき、教育実習に参加できる学生は、麻疹の抗体価が 5.0 以上を有する者とされている。平成 27 年度は 289 名の実習予定者に対し 276 名に麻疹の罹患歴・麻疹ワクチン接種状況の問診と抗体検査を実施した。その結果、5.0 以上の抗体価を有する学生は 251 名（90.9%）5.0 未満の学生は 25 名（9.2%）であった。抗体価が 5.0 未満の 25 名に対しては医療機関にて MR（麻疹・風疹混合）ワクチンを接種させ、抗体検査を再度実施し、全員の抗体価が実習可能であることを確認した。また、検査未受診の 13 名については医療機関受診の勧奨指導をおこなった。

5 健康診断証明書発行状況

自動発行機による部数は、4,057 通であった。保健管理センターにおける発行件数は、848 通であった。発行の最も多い月は、3 月と 6 月であった。毎年、就職活動時期が変更されているため、学生の就職活動に配慮して対応していく方針である。

6 保健管理センター利用状況（本庄地区）

保健管理センターの利用件数は 8,132 件（学生 6,256 件・職員 1,876 件）であった。平成 27 年度では感染症の流行もなく、利用状況に大きな動きはなく、総計は平成 26 年度と比較

して、768件の減少がみられた。

しかし、8,132件という利用件数は、本大学（本庄地区）の保健管理センターが学生および職員の保健管理および治療において十分な役割を果たしていると考えられる。

<鍋島キャンパス>

【学生現状分析】

1. 定期健康診断

新入生 166名中全員(100.0%)が定期健康診断を受けた。在生は731名中724名(99.0%)であった。大学院生は社会人学生の割合も多く、197名中51名(25.9%)が受診した。

2. 新入生健康診断

新入生における現症または所見のある者の中で、頻度の高い疾患および状態像は、気管支喘息3名、骨折の既往歴が3名であった。やせ(BMI 18.5%未満)が22名で女子学生のやせ傾向は目立った。

3. ワクチン接種状況

ムンプス・麻疹・風疹・水痘などの小児感染症については、延べ184名がワクチン接種対象となった。B型肝炎ワクチンは、医学科4年93名、医学科1年106名、看護学科60名、編入学2年1名、計260名が接種を受け、235名が陽転した。陽転しなかった学生については、1月・2月に追加接種を行い、3月末から4月中旬までに確認検査を行った。

インフルエンザワクチン接種は、11月～12月に実習学生医学科5・看護学科3年、および国家試験を受ける学年医学科6年・看護学科4年、勸奨学年医学科2.4年生を中心とした586名に接種した。

4. 健康相談（メンタルヘルス支援）

新入生については、これまで同様に入学時健康診断のスクリーニング調査結果で、ポイントの高い学生11名および健康状態について確認が必要な学生3名を対象に実施した。H23年度から、医学科4年、医学科2年、看護学科3年を対象に全員スクリーニング面接を実施している。

看護学科は、3年生1名が精神疾患のため自主退学した。医学科は2年生の留年が多く、スクリーニング面接は複数回呼出しても、来談しない学生もあり、100%実施できなかった。留年生については、できる限り2回の面談を実施した。面談結果については、カウンセラーによる報告書作成し、教育委員会やチューター会議で報告を行った。

5. 健康診断証明書発行状況

医学部の場合は、免疫の記録（小児感染症・B型肝炎ワクチン接種歴の証明）と国家試験免許申請に関する診断書発行が多く、保健管理センターでの診断書発行は338件であった。

6. 保健管理センター利用状況

H27年度の保健管理センターの利用件数は7,701件（学生3,776件・職員3,925件）であった。今年度は、学生のB型肝炎ワクチン接種が2学年分同時に行うため、利用者は増加した。また、4月の部活による新入生の歓迎行事が制限されたため、4月に感冒症状で保健管理センターを利用する学生が減少した。また、今年度は、学園祭もなかったため、秋の感冒症状の増加もなく経過した。

II. 平成27年度教職員の健康管理実施状況

<本庄事業場>

1. 平成27年度安全衛生活動状況（本庄地区）

本庄地区では、労働安全衛生管理活動状況として、職場環境の整備（作業環境管理・職場の巡視・5S活動・快適職場づくり）、マニュアル等の整備（安全衛生管理マニュアルの作成・MSDSの整備）、健康保持増進対策（健康診断・有所見者に対する事後措置）・メンタルヘルス対策・受動喫煙防止対策）、安全衛生教育（安全衛生教育・能力向上教育・衛生管理者等資格者の確保）の活動がなされている。

2. 定期健康診断：

雇用時健康診断、一般定期健康診断、特定業務従事者健康診断、他機関受診者を併せると、812名が健診を受けていた。その中で、有所見数は263名（32.4%）であった。

3. メンタルヘルス対策

（1）健康相談調査（メンタルスクリーニング）

本庄地区では、全教職員に「勤労者の疲労蓄積度自己診断チェックリスト」でスクリーニングを行った。

さらに、農学部、各教育・研究施設教員には「中災防ウェルネスチェックシート」でのスクリーニングを行った。対象者94名中60名からの回答を得て（回収率63.8%）、要配慮者は8名（13.3%）であった。

また、新規採用・職場異動者の87名を対象としたスクリーニング面接を行った。85名に産業カウンセラーが面接を実施し（面接率97.7%）、5名が継続的にカウンセリングを受けている。

（2）カウンセリング状況（本庄地区）

カウンセリング体制は、産業医2名、産業カウンセラー（非常勤）1名、ナース2名である。新規相談の実数は、67名、延べ面談数は、284名であった。相談の内訳は、精神衛生が25名、人間関係が13名、身体健康が11名などであった。

4. 復職支援実施状況（本庄地区）

佐賀大学では、病気（メンタルヘルスの不調者を含む）やけがなどが原因で心身の健康を害し、休職している教職員（休職しようとする方を含む）に、段階（0～4段階）ごとに産業医等の支援の下に実施している。第0段階（発症時の支援）、第1段階（療養開始・療養中の支援）、第2段階（復職復帰準備期の支援）、第3段階（職場復帰時の支援）、第4段階（職場復帰後の支援）である。

本年度の復職支援は、メンタル以外は2名（延べ18回）、メンタルは9名（延べ58回）であり、復職判定会議は、計4回（本庄職員3名、鍋島職員1名）施行された。その結果、本庄キャンパス職員4名中4名が復職した。

5. 労働災害報告（本庄地区）

平成27年4月から平成28年3月までで、本庄地区は10件であった。申請理由の多くは、作業中の捻挫や打撲、切創であった。

<鍋島事業場>

1. 職員健診

職員健診は、雇入時健康診断292名、定期健康診断1559名、他機関受診が47名、計1898名が健診を受け、受診率は100%であった。特定業務従事者については、年2回健康診断を実施し、1316名が受診した。有所見率は45.8%であったが、要精密検査の未提出が多く、多忙な業務の中での健康管理が課題である。

2. 感染症対策

職員の感染症対策については、総務課・附属病院感染制御部と協力し企画・実施した。

ムンプス・麻疹・風疹・水痘などの小児感染症については、雇用時に全員対象に行い、抗体が不足している職員述べ171名に追加接種を行った。H27年度より小児感染症検査とワクチン代金は大学負担で実施となった。

B型肝炎対策は、始めてワクチン接種を行う学生と、5年ごとに節目検査を行う職員にも対応し、188名にワクチン接種を行った。

インフルエンザは、全職員を対象に実施した。委託職員なども含め1789名にワクチン接種を行った。

3. メンタルヘルス対策

鍋島職員には、全職員スクリーニングに加え、健康診断時に中災防ウエルネスチェックを行った。ウエルネスチェックを行うことで、各部署の傾向がわかり、職場環境改善対策が検

討しやすい状況になっている。復職支援体制が充実し、定期的な産業医・産業保健スタッフの面談・支援を行った。新規採用者・職場異動者・研修医・新人看護師に対しては、産業カウンセラーによるスクリーニング面接を行った。333名に面接を実施し、5名が継続カウンセリングとなった。

H26年度からは、新人看護師の面談を産業カウンセラー実施が年二回、6月と1月に実施した。新人看護師の年度途中の退職は2名であった。平成27年1月に、緊急支援を要する事案があり、附属病院スタッフへ安田・金カウンセラーおよび尾崎産業医による緊急支援を行った。今回は対象職員も多く、部署と協力しアンケートを実施するなどし、早めに支援者の把握ができるような対応を行った。昨年に続き、緊急支援を実施する事案が発生したため、3月1日に実施した管理職研修を参考に、平成27年度の課題である緊急支援体制の改善に努めた。

今年度も病院の改修工事に伴い、長時間労働の面談件数が増加している。今後も保健管理センター以外の産業医2名とも協力しながら、職員のメンタルヘルスを含めた健康支援を行っていききたい。

Ⅱ 教育に関する状況と自己評価

保健管理センターの教員3名はそれぞれ講義および大学院生をもち、教育においても大学において貢献している。その具体的な内容を以下に示す。

<本庄キャンパス>

I. 日常業務

健診業務及び一般健康相談：

定期健康診断・新入生健康診断・新入生健康調査・留学生健診・教職員健診・RI健診・スポーツ学生健康診断・学生および教職員の健康相談・留学生相談/心理相談（学生・教職員）・新型インフルエンザ対策・麻疹抗体検査など。

委員等(佐藤 武)：

〔学内〕

保健管理センター運営委員会（委員長）・労働安全衛生委員会（産業医・委員長）・統括安全衛生管理委員・学生モニター会議委員・入試委員会・学生委員会（オブザーバー）・

大学教育委員会（オブザーバー）・教育室会議委員・医学部研究科委員会・本庄地区産業医・附属中学校保健委員・附属特別支援学校保健委員・施設マネジメント委員

〔学外〕

国立大学保健管理施設協議会理事（メンタルヘルス委員会委員）・全国大学保健管理協会理事（国際連携交流委員）・日本精神衛生学会理事・全国大学メンタルヘルス研究会運営委員・九州地区大学保健管理研究協議会（代表世話人）・九州精神神経学会評議員・佐賀県自殺対策委員会委員、佐賀県いじめ問題対策委員会委員、佐賀県VOISS（犯罪被害者支援団体）理事、など。

〔査読委員〕

「INFORMATION An International Interdisciplinary Journal」「Asian-Information-Science-Life」

「精神神経学雑誌」

「日本ペインクリニック学会誌」

「九州神経精神医学」

「CAMPUS HEALTH」

「こころの健康」など。

委員等（木道 圭子）：

〔学内〕

保健管理センター運営委員会（委員）、本庄地区労働安全衛生委員会（委員、産業医）、本庄地区産業医、ハラスメント相談員、学生支援室・集中支援部門（副部門長）

II. 教育および研究

1. 講義

（学内）：木道圭子：

健康スポーツ科学・後期（対象：農学部1年生）

トレーニング理論・実習（池上寿伸・木道圭子）：1年生前学期

佐藤 武：

健康スポーツ科学・前期

理工学部（機能物質科学）フレッシュマンセミナー

医学部・精神医学（コンサルテーション・リエゾン精神医学）

農学部 「メンタルヘルス」

医学部医科学専攻・修士課程・精神心理学特論

医学部医科学専攻・博士課程・健康スポーツ学特論「ストレスと運動」

(学外)：佐藤 武：

放送大学（専門科目：心理と教育 | こころアレルギー）

日本赤十字九州国際看護大学（統合失調症と妄想性障害、気分感情障害、
人格障害・薬物依存・てんかん、脳機能と薬物療法）

2. 大学生・大学院生等指導

大学院医学系研究科博士課程医科学専攻 2 年生 中村志織

大学院医学系研究科修士課程医科学専攻 2 年生 花房喜代治（H28 年 3 月卒業）

放送大学・佐賀校 卒業研究 心理と教育コース 深野絵理奈（H28 年 3 月卒業）

3. 研究報告

〔著書・総説〕

1. Nagamatsu M, Yano K, Sato T: Adolescent health, public health responses, and sex education program in Japan. International Handbook of Adolescent Pregnancy: Medical, Psychosocial, and Public Health, Springer Publishing Company: New York, 2014, pp.412-439.
2. Nagamatsu M, Hamada Y, Sato T: Adolescent health and development, public health response and the program in Japan. International handbook on adolescent health and development. Springer Publishing Company: New York, 2016 (in press)
3. 佐藤 武、木道圭子：ネット中毒・依存の現状とその要因。大学のメンタルヘルスの現状と課題、そして対策。全国大学メンタルヘルス研究会：岡山，2015，pp.148-157.

〔研究・症例報告〕

1. Hamada Y, Nagamatsu M, Sato T: Factors influencing maternal acceptance of human papillomavirus vaccination for their school-aged daughters in Fukuoka Prefecture, Japan. Br J Med Med Res 7(5): 341-354, 2015.
2. Hayashida Y, Yoo J, Kiyota M, Sato T, Gigurua N, Kitagawa K, Oh YY: Digital Convergence Technologies for Active Living in Disaster Mitigation. Preliminary study. 1st International Symposium on ICT-based Disaster Prevention Design ICTDPD2015, January 23-25, pp.41-42, 2015.
3. Yamawaki N, Riley C, Sato T, Omon M: Beliefs about causes of and risk factors for mental disorders: A comparison of Japanese and American college students. Asian

Social Science 11(15): 197-203, 2015.

4. 佐藤 武、木道圭子、中島俊思：発達障害等の悩みを持つ学生の支援体制－佐賀大学におけるキャンパス・ソーシャルワーカーについて－. CAMPUS HEALTH 52 (2): 52-57, 2015.
5. 丸谷 俊之、安宅 勝弘、齋藤 憲司、高山 潤也、佐藤 武、杉田 義郎、苗村 育郎：全国国立大学大学院学生の死亡の状況について：平成 24 年度調査から. CAMPUS HEALTH 52 (2): 181-186, 2015.
6. 布施泰子、三浦淳、苗村育郎、佐藤武：大学における休・退学、留年学生に関する調査結果と考察－平成 24(2012)年度分の調査について－. CAMPUS HEALTH 52 (2): 169-174, 2015.
7. 丸谷 俊之、安宅 勝弘、齋藤 憲司、高山 潤也、佐藤 武、杉田 義郎、苗村 育郎：全国国立大学大学院学生の休学・退学・留年の状況について・平成 24 年度調査から. CAMPUS HEALTH 52 (2): 175-180, 2015.
8. 三浦淳、布施泰子、苗村育郎、佐藤武：大学における休・退学、留年学生に関する調査第 3 5 報（平成 24 年度集計結果）. 第 3 6 回全国大学メンタルヘルス研究会報告書, 2014, pp. 26-31.
9. 丸谷 俊之、安宅 勝弘、齋藤 憲司、高山 潤也、佐藤 武、杉田 義郎、苗村 育郎：大学院における休学・退学・留年学生に関する調査－平成 2 4 年度集計結果を中心に－. 第 3 6 回全国大学メンタルヘルス研究会報告書, 2014, pp. 16-25.
10. 佐藤 武、清田 勝、林田行雄：悩みを抱える学生の行動軌跡－（1）方法論の検討－. 第 3 6 回全国大学メンタルヘルス研究会報告書. 2014, pp. 70-72.
11. 佐藤 武、林田行雄：韓国・台湾・ニュージーランドにおける保健管理センターの現状視察. 第 3 6 回全国大学メンタルヘルス研究会報告書, 2014, pp. 32-34.
12. 布施泰子、三浦淳、平井伸英、苗村育郎、佐藤武：大学における休・退学、留年学生に関する調査第 3 6 報（平成 25 年度分の集計結果から）. 第 3 7 回全国大学メンタルヘルス研究会報告書（印刷中）
13. 丸谷 俊之、安宅 勝弘、齋藤 憲司、高山 潤也、佐藤 武、杉田 義郎、苗村 育郎：大学院における休学・退学・留年学生に関する調査－平成 2 5 年度調査結果を中心に－. 第 3 7 回全国大学メンタルヘルス研究会報告書（印刷中）
14. 渡辺慶一郎、苗村育郎、布施泰子、金子稔、大島紀人、島田隆史、川瀬英理、佐々木 司、杉田義郎、佐藤 武、守山敏樹、大島亜希子：大学生を対象にした発達障害に関する質問紙調査の解析. 第 3 7 回全国大学メンタルヘルス研究会報告書（印刷中）
15. 中村志織、佐藤 武：佐賀大学保健管理センターにおける陶芸療法によるメンタル支援. 第 3 7 回全国大学メンタルヘルス研究会報告書（印刷中）
16. 布施泰子、三浦淳、平井伸英、苗村育郎、佐藤武：大学における休・退学、留年学生に関する調査第 3 6 報（平成 25 年度分の集計結果から）. CAMPUS HEALTH（投稿中）

17. 丸谷 俊之、安宅 勝弘、齋藤 憲司、高山 潤也、佐藤 武、杉田 義郎、苗村 育郎：大学院における休学・退学・留年学生に関する調査—平成25年度調査結果を中心に—、CAMPUS HEALTH（投稿中）

〔学会参加・報告〕

1. 佐藤 武：九州地方部会代表世話人の挨拶。第45回九州地区大学保健管理研究協議会（鹿屋体育大学 主催）、平成27年8月20日—21日、鹿児島。
2. 佐藤 武：一般演題Ⅰ 座長。第45回九州地区大学保健管理研究協議会（鹿屋体育大学 主催）、平成27年8月20日、鹿児島。
3. 尾崎岩太、安田 郁、古川早苗、武富弥栄子、小川康子、福島雅子、木道圭子、佐藤 武、市場正良：職業性ストレス調査の有用性：佐賀大学医学部における結果から。第53回全国大学保健管理研究集会（岩手大学 主催）、平成27年9月9日—10日、盛岡。
4. 佐藤 武：（シンポジウム3）アウトリーチの現状と今後の課題。第31回日本精神衛生学会大会（産業医科大学 主催）、平成27年12月5日—6日、折尾（北九州）。
5. 佐藤 武：日本側の代表（あいさつ）。中日韓臨床芸術療法大会、平成27年11月6日—7日、北京。
6. 佐藤 武：（シンポジウム1）発達障害および精神に障害のある大学生の支援。第37回全国大学メンタルヘルス研究会（九州大学 主催）、平成27年12月10日—11日、福岡。
7. 中村志織、佐藤 武：佐賀大学保健管理センターにおける陶芸療法によるメンタル支援。第37回全国大学メンタルヘルス研究会（九州大学 主催）、平成27年12月10日—11日、福岡。

〔その他〕

1. 佐藤 武：診察室から「線虫嗅覚で高精度がん検出法 発想の転換による大発見。佐賀新聞：平成27年4月4日号。
2. 佐藤 武：診察室から「グルーミングによる「うつ予防」人と人とのつながりを深めよう」。佐賀新聞：平成27年5月2日号。
3. 佐藤 武：診察室から「不眠症のメカニズムと予防 眠れない人はどの程度」佐賀新聞：平成27年5月30日号。
4. 佐藤 武：診察室から「90年代、韓国で7～4時間勤務制「体持たない」数年で廃止」佐賀新聞：平成27年7月4日号。
5. 佐藤 武：診察室から「意志」「選択」「芸術」これからの大学生へ望むこと」佐賀新聞：平成27年8月8日号。
6. 佐藤 武：診察室から「最近のコマーシャルに学ぶ 人は変えられるか？」佐賀新聞：平成27年9月12日号。

7. 佐藤 武：診察室から「新型・ベルソラム 睡眠薬の種類と効果」佐賀新聞：平成 27 年 11 月 14 日号。
8. 佐藤 武：診察室から「最先端のがん免疫療法 免疫細胞の働き取り戻す」佐賀新聞：平成 27 年 12 月 19 日号。
9. 佐藤 武：診察室から「「カット野菜」がブームに生活習慣病の予防に有効か？」平成 28 年 1 月 23 日号。

Ⅲ. 地域貢献・国際貢献

講 演

1. 吉田和代、木道圭子、他：心肺蘇生講習（教職員向け）平成 27 年 5 月 27 日 佐賀大学文化教育学部附属特別支援学校。
2. 吉田和代、木道圭子、他：心肺蘇生講習（教職員向け）平成 27 年 8 月 27 日 佐賀大学文化教育学部附属小学校。
3. 木道圭子：ストレスチェック制度について 平成 27 年度佐賀大学副課長級研修 平成 27 年 12 月 10 日 菱の実会館。
4. 佐藤 武：新生のメンタルヘルス予防. 佐賀大学農学部、佐賀大学、平成 27 年 4 月 27 日. 佐賀.
5. 佐藤 武：こころアレルギー. 佐賀女子短期大学講演、平成 27 年 5 月 7 日、佐賀.
6. 佐藤 武：大学生生活から有意義に過ごすには. 佐賀大学工学系研究科「フレッシュマンセミナー」、平成 27 年 5 月 12 日、佐賀.
7. 佐藤 武：心電図の読み方とマラソン中の事故. アミノバリューホノルルマラソン講習会、平成 27 年 5 月 5 日、佐賀.
8. 佐藤 武：職場におけるメンタルヘルス対策について. 佐賀県警本部、平成 27 年 6 月 2 日、佐賀.
9. 佐藤 武：こころアレルギー. 平成 27 年度佐賀県ベンチャー交流ネット work 第 2 回例会、平成 27 年 7 月 23 日、佐賀.
10. 佐藤 武：職場におけるメンタルヘルス. 平成 27 年度佐賀大学採用職員研修。佐賀大学、平成 27 年 7 月 29 日、佐賀.
11. 佐藤 武：中高年のメンタルヘルス. いのちの電話、平成 27 年 7 月 29 日、佐賀.
12. 佐藤 武：中高年のメンタルヘルス. いのちの電話、平成 27 年 8 月 1 日、佐賀.
13. 佐藤 武：精神の発達とその課題－発達障害やうつ病の心理相談から－. 教員免許状更新講座、佐賀大学医学部、平成 27 年 8 月 24 日、佐賀.
14. 佐藤 武：大学生のメンタルヘルス 現状と対応. 佐賀県ゲートキーパー養成講座、平成 27 年 9 月 18 日、佐賀.
15. 佐藤 武：うつ患者にみられる身体症状の診方・治し方－抗うつ薬の上手な使い方－.

八女筑後医師会学術講演会、平成 27 年 9 月 24 日、久留米。

16. 佐藤 武：薬の副作用。本庄公民館・生活教養セミナー講話、平成 27 年 9 月 29 日、佐賀。
17. 佐藤 武：学生のメンタルヘルス 現状と対応。有明高等専門学校講演、平成 27 年 10 月 6 日、大牟田。
18. 佐藤 武：「うつ」に対する理解と対処法。佐賀県警「ライフサイクルセミナー 40」、佐賀県警、平成 27 年 10 月 14 日、佐賀。
19. 佐藤 武：メンタルヘルス。佐賀県警察学校、平成 27 年 10 月 29 日、佐賀。
20. 佐藤 武：不登校・ひきこもり学生・復学者の支援。九州工業大学講演、平成 27 年 10 月 28 日、福岡。
21. 佐藤 武：健康・サプリメントに関する誇大広告・宣伝の問題について。佐賀県医師国民健康保険組合 第 10 回歩こう会、平成 27 年 11 月 8 日、長崎県波佐見町
22. 佐藤 武：「ラインによるケア」の具体的例の紹介とよりよい上司部下関係の構築について。佐賀大学フォローアップ研修、平成 27 年 11 月 18 日、佐賀。
23. 佐藤 武：うつ病の予防。佐賀市警察署、平成 27 年 11 月 27 日、佐賀。
24. 佐藤 武：うつ病の治療と予防。佐賀県警察本部機動隊、平成 27 年 11 月 30 日、佐賀。
25. 佐藤 武：うつ病。いのちの電話、メートプラザ、平成 28 年 1 月 9 日、佐賀。
26. 佐藤 武：メンタルヘルスチェック制度について。教職員 10 年経験者研修、佐賀県教育センター、平成 28 年 1 月 6 日、佐賀（大和）。
27. 佐藤 武：うつ病。いのちの電話、アバンセ、平成 28 年 1 月 16 日、佐賀。

IV. 科学研究費補助金など

1. 佐藤 武：総務省：サガン鳥栖健康増進プログラム推進事業（サガン鳥栖健康増進プログラム地域協議会会長：佐藤 武）（予算は 2010 年度より、事業は 5 年間で終了）。
2. 佐藤 武：外国人特別研究員 Niwako Yamawaki, PhD (associate professor of Brigham Young University) の受け入れ。Japan Society for the Promotion of Sciences (JSPS)。平成 27 年 10 月 4 日ー平成 27 年 11 月 17 日。

る。

<鍋島キャンパス>

I. 日常業務

1. 健診業務及び一般健康相談

学生：新入生健康診断・新入生健康調査・学生健康診断（学部・大学院）・B 型肝炎検査（新入生）および HB ワクチン接種（新入生、医学科 4 年、看護科 2 年）・感染症抗体検査（新入生／麻疹，風疹，ムンプス，水痘）および抗体陰性者に対するワクチン接種・

インフルエンザワクチン接種（実習学生および希望者／新型インフルエンザ含む）・ツベルクリン反応検査（新入生）、健康相談・心理相談（学生カウンセラーによるカウンセリングを含む）

職員：定期健康診断・特定業務従事者健康診断・雇入時健康診断・健康診断事後措置（産業保健師による保健指導等）・B型肝炎検査および抗体陰性者に対するワクチン接種・感染症抗体検査（麻疹，風疹，ムンプス，水痘）および抗体陰性者に対するワクチン接種・インフルエンザワクチン接種（新型インフルエンザ含む）・労災（針刺し事故等）に対する事後措置、健康相談・心理相談（産業カウンセラーによるスクリーニング面接、希望者に対するカウンセリングを含む）

委員等

〔学内〕

佐賀大学医学部安全衛生委員会・佐賀大学医学部教育委員会（オブザーバー）・佐賀大学動物実験委員会・佐賀大学遺伝子組み換え委員会・佐賀大学医学部及び附属病院エコアクション21委員会・佐賀大学医学部附属病院社会保険委員会・佐賀大学医学部附属病院感制御部会議・佐賀大学ハラスメント相談員・佐賀大学鍋島事業場産業医

〔学外〕

佐賀県肝疾患対策委員会（委員長）
佐賀県肝炎治療助成費認定協議会委員
佐賀県国民健康保険診療報酬審査委員会委員
佐賀県社会福祉審議会委員

II. 教育および研究

講義等

尾崎岩太. 実習の安全管理：感染予防を中心に. 医学科4年 臨床入門. 2015. 1. 19
尾崎岩太. 医学生健康管理 医学科3年 地域医療 Unit1 2015. 4. 15
尾崎岩太. 医学科4年 Unit10 臨床入門 漢方入門：内科領域の漢方治療 2015. 9. 4
尾崎岩太. 生活習慣と健康. インターフェイス科目：食と健康 III 運動と栄養. 2015.10.28
PBL チューター
Unit2 消化器 医学科3年 2015.6.23, 25 &7.7, 10

講演

尾崎岩太. 佐賀エイズ問題研究会から思春期ネットワーク佐賀(SNS)へ 佐賀の地域性：HIVとHCVの経緯から AIDS文化フォーラム in 佐賀 2015. 2. 21-22 佐賀大学（佐賀市）

尾崎岩太. 病院で働き始める前に. 佐賀大学医学部附属病院看護師オリエンテーション.
2015.4.10 佐賀大学医学部附属病院 (佐賀市)

尾崎岩太. C型肝炎に対するインターフェロンフリー治療に関する講習会 2015.10.15
鳥栖保健福祉事務所 (鳥栖市), 21015.10.16 杵藤保健福祉事務所 (武雄市)

尾崎岩太. 佐賀県の肝疾患の現状. 平成 25 年度佐賀県地域肝炎コーディネーター養成研修
会 2015.11.7-8 佐賀大学医学部 (佐賀市)

Peer Review

Hepatology Research

Cancer Cell International

Journal of Nutritional Biochemistry

International Journal of Molecular Science

World Journal Gastroenterology

大学院生等受け入れ指導

佐賀大学医学部博士研究員 夏 京合

社会人大学院医学系研究科博士課程医科学専攻 4 年 桑代卓也

佐賀大学医学部研究留学生 (H28.4.1 より医学部大学院医学系研究科進学予定, 文部科学省
国費留学生) Mr. Mohamad Manirujjaman

Ⅲ. 研究報告

[著書]

原著論文

amachi S, Mizuta T, Otsuka T, Nakashita S, Ide Y, Miyoshi A, Kitahara K, Eguchi Y,
Ozaki I, Anzai K. Sarcopenia is a risk factor for the recurrence of hepatocellular
carcinoma after curative treatment. *Hepato Res.* 2015 Jul 29. doi: 10.1111/hepr.12562.
[Epub ahead of print] PMID: 26223826

Furukawa NE, Yamashita SI, Maeyama K, Oeda S, Iwane S, Hirai K, Ozaki I, Eguchi
Y. Clinical course of hepatitis B surface antigen-positive subjects following screening:
A retrospective observational study from April 2008 to January 2013. *Hepato Res.*
2015 Oct 22. doi: 10.1111/hepr.12608. [Epub ahead of print] PMID:26492344

M Hara, M Fukuoka, K Tashiro, I Ozaki, S Ohfuji, K Okada, T Nakano, W Fukushima and Y Hirota. Pertussis outbreak in university students and evaluation of acellular pertussis vaccine effectiveness in Japan BMC Infectious Diseases (2015) 15:45 DOI 10.1186/s12879-015-0777-3

Eguchi Y, Kitajima Y, Hyogo H, Takahashi H, Kojima M, Ono M, Araki N, Tanaka K, Yamaguchi M, Matsuda Y, Ide Y, Otsuka T, Ozaki I, Ono N, Eguchi T, Anzai K; Japan Study Group for NAFLD (JSG-NAFLD). Pilot study of liraglutide effects in nonalcoholic steatohepatitis and nonalcoholic fatty liver disease with glucose intolerance in Japanese patients (LEAN-J). Hepatol Res. 2015 Mar;45(3):269-78. doi: 10.1111/hepr.12351. Epub 2014 May 28. PMID:24796231

Kawaguchi Y, Iwane S, Kumagai T, Yanagita K, Yasutake T, Ide Y, Otsuka T, Eguchi Y, Ozaki I, Akiyama T, Kawazoe S, Mizuta T. Efficacy and Safety of Telaprevir, Pegylated Interferon α -2b and Ribavirin Triple Therapy in Japanese Patients Infected with Hepatitis C Virus Genotype 1b. Intern Med. 2015;54(20):2551-60. doi: 10.2169/internalmedicine.54.4817. Epub 2015 Oct 15. PMID:26466688

Iwane S, Mizuta T, Kawaguchi Y, Takahashi H, Oza N, Oeda S, Nakashita S, Kuwashiro T, Otsuka T, Kawazoe S, Eguchi Y, Anzai K, Ozaki I, Fujimoto K. Impact of Body Weight Reduction via Diet and Exercise on the Anti-Viral Effects of Pegylated Interferon Plus Ribavirin in Chronic Hepatitis C Patients with Insulin Resistance: A Randomized Controlled Pilot Trial. Intern Med. 2015;54(24):3113-9. doi: 10.2169/internalmedicine.54.5574. Epub 2015 Dec 15. PMID:26666596

総説

Xia J, Mizuta T, Ozaki I. Vitamin K and hepatocellular carcinoma: The basic and clinic. World J Clin Cases. 2015 Sep 16;3(9):757-64. doi: 10.12998/wjcc.v3.i9.757. Review.

水田敏彦, 尾崎岩太. 肝臓とビタミン K2 Clinical Calcium 2015; 25(11): 1645-1651.

学会発表

桑代卓也, 尾崎岩太, 岩根紳治, 松橋幸子, 大塚大河, 江口有一郎, 安西慶三. 細胞外マトリックスは細胞接着シグナルを介してインターフェロンシグナルを抑制する。第 51 回に本肝臓学会総会 2015. 5. 21-22. 熊本 肝臓 2015: 56(Suppl 1): A541.

岡田倫明, 泉夏美, 古川尚子, 大枝敏, 岩根紳治, 尾崎岩太, 安西慶三, 江口有一郎. 一

般市民向け公開講座のアンケートから得られた来場者の背景と来場者増加，ニーズ向上の課題. 第 51 回日本肝臓学会総会 2015. 5. 21-22. 熊本 肝臓 2015: 56(Suppl 1): A587.

北島陽一郎, 高橋宏和, 辻千賀, 尾崎岩太, 小野尚文, 江口尚久, 江口有一郎, 安西慶三. 食事運動療法による脂肪肝改善に骨格筋脂肪が与える影響. 第 51 回日本肝臓学会総会 2015. 5. 21-22. 熊本 肝臓 2015: 56(Suppl 1): A324.

窪津祥仁, 大塚大河, 荒木紀匡, 蒲池沙央里, 磯田広史, 中下俊哉, 江口有一郎, 尾崎岩太, 安西慶三. 早期肝細胞癌根治治療後のインターフェロンによる抗ウイルス療法. 日本肝臓学会総会 2015. 5. 21-22. 熊本 肝臓 2015: 56(Suppl 1): A558.

尾崎岩太, 安田郁, 古川早苗, 武富弥栄子, 小川康子, 福島雅子, 木道圭子, 佐藤武, 市場正良. 職業性ストレス調査の有用性: 佐賀大学医学部における結果から. 第 53 回全国大学保健管理研究集会 2015. 9. 9-10. 盛岡 プログラム・抄録集 p82 F1-6.

尾崎岩太, 安田郁, 古川早苗, 武富弥栄子, 小川康子, 福島雅子, 木道圭子, 佐藤武, 市場正良. 職業性ストレス調査の有用性. 第 45 回九州地区大学保健管理研究協議会 2015. 8. 19-21. 鹿児島 プログラム・抄録集 p19.

小島基靖, 桑代卓也, 岡田倫明, 高橋宏和, 松田やおい, 尾崎岩太, 田中賢一, 荒木紀匡, 北島陽一郎, 小野尚文, 江口尚久, 小野正文, 兵庫秀幸, 江口有一郎, 安西慶三. NASH における GLP-1 受容体作動薬の膵β細胞保護作用に関する検討. 第 41 回日本肝臓学会西部会 2015. 12. 3-4. 名古屋 肝臓 2015; 56(suppl 3): A987.

Guo J, Xia J, Kuwashiro T, Kojima M, Ozaki I, Anzai K, Matsushashi S. PDCD4 knockdown inhibits cell growth by interfering cell cycle regulators via upregulation of p21 expression in hepatoma cells. BMB2015 第 38 回日本分子生物学会年会・第 88 回日本生化学学会大会合同大会 2015. 12. 1-4. 神戸 抄録集 1P0133.

以上、両キャンパスとも、日常業務に加えて、教育、研究、地域貢献及び国際貢献など、十分に果たしていると考えられる。

佐賀大学保健管理センター外部評価 評価調査票
 (平成27年度実績に対する評価)

委員名：林田 行雄

項番	評価項目	評価	評価についてのコメント
1	学生支援の領域	<input checked="" type="checkbox"/> 十分良い <input type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> やや悪い <input type="checkbox"/> 不十分	<p>・本庄キャンパス及び鍋島キャンパスに学修する総数約 7000 人超の学生の定期健康診断を通じて保持増進を見守っている。</p> <p>定期健康診断に基づく所見等により、適切な医療機関により治療が行われている。</p> <p>・増加傾向にあるメンタルヘルス対策にとって有効なカウンセリングは、学生支援室集中支援部門への新たな専任教員の配置、キャンパスソーシャルワーカーのアウトリーチ活動等との連携によって細やかな対応がとられ、更に学生生活支援課等との密なる連携をもった体制を整備している。</p> <p>・自主退学者は平成 26 年度にやや増加し (122 名)、その対策の一つにメンタルサポートの観点も必要と考えられている。</p> <p>・平成 27 年度は感染症の流行が見られなかったが、その対策の重要性は近年高まり、麻疹抗体検査、ワクチン接種等の指導を行っている。</p>
2	教職員支援の領域	<input checked="" type="checkbox"/> 十分良い <input type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> やや悪い <input type="checkbox"/> 不十分	<p>・本庄キャンパス及び鍋島キャンパスに勤務する総数約 3,000 人の職員の健康保持及び増進を見守っている。</p> <p>・職員のメンタルヘルス対策及び病気等で休職対象の職員のケアも丁寧に行われている。</p> <p>・鍋島キャンパスでは付属病院も設置されていることから、感染症対策は協力して実施されている。</p>

			<ul style="list-style-type: none"> ・人事課が実施する新規採用職員研修でメンタルヘルスの講話を実施するなど、センター専任職員と関係部署との連携支援体制の充実を図っている。
3	教育の領域	<input checked="" type="checkbox"/> 十分良い <input type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> やや悪い <input type="checkbox"/> 不十分	<ul style="list-style-type: none"> ・大学及び関連教育機関で開講される健康等に関する教養及び専門科目の担当や学会等の委員を務めることにより、基礎から先端医療までの知識を教授している。 ・健康保持及び増進に繋がる教育指導は、日常業務としても行われ、例えば患者さんの相談に応じて適切な解決策を提示している。
4	研究の領域	<input type="checkbox"/> 十分良い <input checked="" type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> やや悪い <input type="checkbox"/> 不十分	<ul style="list-style-type: none"> ・学会論文誌、招待講演、口頭発表を活発に行なっている。 ・新たな科学研究費助成等の外部研究資金の獲得に向けた努力もされている。

5	国際交流・社会貢献の領域	<input checked="" type="checkbox"/> 十分良い <input type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> やや悪い <input type="checkbox"/> 不十分	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流に関しては、台湾、韓国等と交流され、大学の学生、教職員の健康管理体制等について知見を得ている。 ・社会貢献に関しては、国、佐賀県、学協会等の委員の委嘱を受け、地域で開催される研修会及び講演会等の演者として、また新聞雑誌等のコラムニストとしての役割を活発に果たしている。
6	組織運営の領域	<input checked="" type="checkbox"/> 十分良い <input type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> やや悪い <input type="checkbox"/> 不十分	<ul style="list-style-type: none"> ・校内組織の運営に関しては、保健管理センター運営委員会、労働安全衛生委員会、統括安全衛生委員会、附属中学校保健委員、附属特別支援学校保健委員、施設マネージメント委員会などを通じて、佐賀大学の学生及び職員の健康保持及び増進に務めている。 ・保健管理センター内においては、教員、看護師、事務職員他との連携体制について不断にPDCAサイクルを実施し、そのレジリエンスを強化することにより衛生環境の激変に対応する努力をされている。
7	施設の領域	<input type="checkbox"/> 十分良い <input checked="" type="checkbox"/> おおむね良い <input type="checkbox"/> やや悪い <input type="checkbox"/> 不十分	<p>(本項目は施設巡視時の評価コメントを含めている。)</p> <p>◎良好な点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬品庫は施錠、管理簿などにより厳重に管理されている。 ・センター建屋の施錠は障害者に配慮された電子化がされており、入退出管理は厳重に行われている。 ・階段の乗降ができない人にとって有効なスロープが設けられ、バリアフリー化がなされている。 ・来館者案内掲示板が備えられ、スムーズな対応を促している。

			<ul style="list-style-type: none">・診察室等の安全衛生に関しては、日々の点検が行われている。・AED の他、心電計、エコー、デジタルレントゲン画像ビューア等の最新の医療機器が備えられ、診断に活用されている。 (平成 28 年度導入)・保健管理センターの危機管理マニュアルが作成され、周知されている。 <p>◎改善を要すると思われる点</p> <ul style="list-style-type: none">・保健管理センターの老朽化に伴い、1 階の処置室の壁面の汚れ等が見られるので、患者さんの安静及び清潔な環境を提供するための工夫、改善等が必要と思われる。
--	--	--	--